

校長研修だより133 (2024年新年号)

PRIDE

2024・1・6 重枝 一郎

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

「プライド」について思うことがある。

リーダーにおいて(教員はある意味皆リーダー)、一般的によく言われるのが「プライド」を自分に対して持つか、自分以外に対して持つかで、自分の置かれている人的環境が変わるといふ。

自分に対して「プライド」が高い人は、自分のミスや弱点を隠すことに必死なので、他者からの指摘を受け入れないし、他者から助けられているという気付きも弱い。しかも、そういう人は、自分では隠しているつもりでも、周りからそういう人だと気づかれている。みんなにバレている。だから周りは気を遣い、距離を置く。仕事はチームで行うもの。だから仕事は円滑にまわらない。そうなるとう当然良い仕事はできなくなる。また、このタイプは、人が寄りつかないから、他者からズバリ言われることが少ない。しかも、言われたくないオーラがすごい。もし言われたら、「自分のプライドが傷つけられた」と怒り狂う。言い訳もすごい。そしてその姿は、史上最高にかっこ悪い。

一方で、「プライド」の対象を自分以外にしている人は、良い結果を出すと言われる。

「プライド」の対象というものは、例えば、自分の仕事に対してのプライドや自分のチームのメンバーに対するプライドなどである。こういう人は、誰かのためにというマインドを「プライド」としている。「自分はどいうわれようがいいが、チームメイトの悪口は許せない」「自分は恥をかいてもでも、この件は成功させる」という感じである。そういう人の周りには必然と人と仕事とチャンスが集まってくる。

さて、前者のように「自分に対してだけのプライドが高い人」を見ることはないだろうか。よくそこまで自分を過大評価できるものだと冷静に見てしまうことはないだろうか。何を根拠にそう思えるのだろうか。その自信はどこから来るのだろうか。現実が見えないフィルターでもかかっているのだろうか。見えないようにして虚勢を張っているのだろうか。

自分のリーダーシップについて、本校着任当初に書いた内容を一部抜粋して再度紹介する。この話は、私がこの学校に来て2週間たった時に出した「校長研修だより3号」である。

(略)

私は、一般的にリーダーとして失敗するパターンとして2つあると思っている。一つは、自分に合わないスタイルになろうとして「虚像」と闘い自滅してしまうこと。もう一つは「矛盾」と闘い自滅してしまうことである。

前者は、事案に対する感度のない指示や指摘をしたりする。そして、責任は他者といった感じである。私は求められれば、私の経験則に基づいた話はする。しかし、先生方の感度は重要視する(責任はちゃんととります・笑)。

後者は、そもそも組織というものは、異なる個人が集まった集合体である。そうなるとうもちろん意見は千差万別で、常に誰かが批判し、誰かが傷ついているという状態である。

そこで多くの人は、矛盾をなくすための努力をし、唯一の正解を見つけようとしがちである。しかし、多様な価値観が渦巻く組織において、矛盾をなくす正しい方法など存在しない。まずすべきは矛盾を受け入れること（白黒思考をしない）。そのうえで現状に
応じた自分なりの判断をしていくことが大切だと思っている。

先生方に年度初めに「校内研修会」をさせていただいた。これは組織の拠りどころとなる“方向感”を示したつもりである。そしてこれからもこのような「校長研修だより」を発信していく。出し惜しみはせず、みなさんの大切な時間を邪魔しないよう、様々な考えや気持ちを共有していきたい。その積み重ねが、より強いチームができると考えている。これは、私を知ることもつながるが、一番は、**チームの勝利**（学力向上、主体性・協働性の向上）のために発信していく。今回の研修の中で、「**起こりがちなすれ違い**」を話した。先週、非常勤の先生方とお話を少しさせていただいた。雇用形態の違い、世代の違い、役職の違いにおいても“起こりがちなすれ違い”が起こる。みんなで良好なコミュニケーションを図りながら、チームとして、主体性の総和が高まるようにやっていきたい。みなさんよろしくお祈りします。

（略）

先生方にはぜひ、この研修だよりや会話の中での「**パワーフレーズ**」となりそうな言葉や考え方を自分の語りで生徒・保護者へ発信してほしいと思う。これは組織に**再現性**（ある程度、誰でも同じように語る）を生むことになり、**一体感**を生む。

（略）

偶然を必然に変えるのは「**連続性**」である。この「**連続性**」とは、関わり続けることで必ず勝利できるということである。ただ、そのプロセスにおいて、何がよかったのか、悪かったのか、どうしてうまくいったのか、いかなかったのか、ということ常を振り返っていくことが、偶然を必然に変え、成功する秘訣だと思う。私たちの教育活動は、「点」でなく「線」にして、**連続性のマインド**をもつことが大切になる。

このようなことを着任して2週間でみなさんにお話ししていた。

誰しも、「できること」「できないこと」がある。私は、「できないこと」を隠すのではなく、仲間に助けてもらうことをしてもらいたい。助けてもらうとその人を好きになるからである。それが人を好きになる秘訣である。そして、助けてもらうと、自分が「できること」で誰かを助けようとするマインドがつかれるからである。私たちの学校は、こういうつながる力を「**PRIDE**」にする。